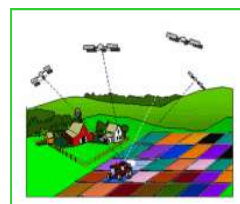




北海道情報化農業ニュース

北海道における持続的な農業の発展のための情報技術の活用促進
およびその健全な普及を図る。



●スマート農業セミナー ～道内スマート農業先進的な取組と今後の展開～

No. 75 241127

【報告】

共催しました表題のセミナーについて、概要について報告いたします。

主催者/一般社団法人北海道産官学研究フォーラム（会場 21 名、ウェブ 160 名の参加）

日時：令和 6 年 11 月 8 日（金）13：30～ 会場：設計会館 8 階 会議室 A

録画 URL：<https://youtu.be/zra-VjdSuzg>（2024/12/31 まで）

● 基調講演. 道内のスマート農業の進展 北海道 農政部生産振興局 技術普及課 主幹 澁木圭介氏

北海道では、7つの取り組み方針で構成される北海道スマート農業推進方針を制定し、

- ・スマート農業機器研修
- ・相談窓口設置
- ・スマート農機導入支援

など普及拡大、社会実装の加速化を進めている。その他、普及状況として

- ・GNSS ガイダンスシステムの導入調査結果推移
- ・スマート農業技術検討組織の設立状況等

を説明。今後は、機械の高額化や人材育成が課題となる中、生産者誰もが技術を活用できる環境づくりの推進を目的とした各種施策を実施していくと説明がありました。



● 講演 2. 岩見沢市におけるスマート農業の取組み ㈱スマートリンク北海道 常務取締役 小林伸行氏

産官学連携体制を構築し、農水省や総務省など事業を活用しながら、導入効果を検証し、次の課題を設定して取り組んでいくという PDCA サイクル循環を繰り返し、発展させていると説明がありました。

具体的には、

- ・RTK 基地局や気象ロボットの整備
- ・ロボットトラクタによる作業時間削減の検証
- ・ローカル 5G 導入によるトラクタ無人運転およびリモート監視の検証
- ・化学肥料減肥や堆肥・緑肥活用に伴う土壌化学性・物理性を改善による収量増収効果検証

など、さまざまなテーマに取り組んでいると説明。

また、スマート農業機器導入の手引書や説明会等を実施し普及啓発活動に力を入れていることや、スマート農業導入で得た知見や通信インフラを農業以外での活用として市道除雪や福祉・教育など地域課題解決にも応用していると説明がありました。



●講演 3. 美唄市におけるスマート農業の取組み 美唄市 経済部農政課 農務係 澤田宜之氏

美唄市では、スマート農業推進には、まず高速通信環境が必要であると認識し、総務省の事業を活用して 5G 通信環境の整備を行ったこと。さらに、市独自の補助金として、GNSS ガイダンスや自動操舵システム、ドローン・水田センサー導入やドローン資格取得補助等を実施していると説明がありました。

この中で重点的な取り組みとして、水管理システム導入とドローン防除を挙げ、具体的な利活用方法の講習会や人材育成を行い、普及拡大を図っていると説明がありました。



●講演 4. 新篠津農協全組合員の効率的な農地デジタル地図作製手法の開発と今後の取り組みについて 新篠津村農業再生協議会農業振興係 加藤祥之氏

水田活用の直接支払交付金見直しにより、水田の水張確認調査に労力とコストが生じている現状があり、これらの課題解決方法の 1 つとして GIS を用いて効率的に農地地図作製を行う手法を検討し、地図作製作業時間が大幅に軽減したと報告がありました。



●パネルディスカッション コーディネーター 竹中秀之氏

講演者 4 名に加え、パネリストとして 2 名の農業者の紹介とプレゼンテーションを行いました。

●新篠津村 ICT 農業研究会 会長 高橋一志氏

- ・ SNS で GPS ガイダンスに興味を持ち、村長に必要性等繰返し働きかけ、村内に GNSS 基地局整備を実現。
- ・ GPS ガイダンス導入による走行方法の効率化で作業時間を削減。燃料代節約や機械損耗を抑制。
- ・ 衛星画像生育診断サービスによる適期刈取り作業で乾燥代コスト削減や Jクレジット (温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度) の村内取りまとめ申請サポートなど収支改善事例を報告。

●当別町・藤原農場 藤原啓輔氏(プレゼン)

- ・ ホクレン RTK システムや水管理システムを導入し、管理している 20ha ほどの水田はほぼスマート農機で管理状況を報告。

以上 2 名のプレゼンテーションののちパネルディスカッションが行われ、スマート農業機器の国内普及当初は主に外国製品で操作取扱い情報も少なく技術習得の苦労や地域の普及のため、行政や JA を巻き込んでいく難しさ、導入したシステムの不具合対応事例など、普段とは違った切り口の議論がなされました。最後に、今後のスマート農業の各地への展開で重要な点として、「農家が儲かるか」という視点や地域マネージャーの育成体制の構築、また地域経済循環のために、何を起爆剤とするか選定すること、それを PDCA サイクルで回しそれを繰り返す、ということが重要であるといった内容がまとめられ、大変中身の濃い議論が交わされました。

以上、スマート農業セミナーの概要報告とします。



＜発行＞北海道高度情報化農業研究会
事務局長：戸松 雅典
〒060-0005 札幌市中央区北 5 西 6-1
公益財団法人北海道農業公社 農村施設部
TEL：011-241-7551 FAX：011-271-3776
e-mail：tomatsu@adhokkaido.or.jp